

6 がん体験者が悩みをやわらげるために必要と思う情報や支援

(1) がん体験者が求める情報や支援：全体集計リスト

悩みや負担をやわらげるために必要と思う情報や支援を自由記述で回答してもらい、「診療の悩み」、「身体の苦痛」、「心の苦悩」、「暮らしの負担」の4つの柱を基本に類似した内容ごとにまとめた。「診療の悩み」と「心の苦悩」に関する支援や情報を必要とする回答が多かった。

表 6-1 がん体験者が求める情報や支援：全体集計リスト (全件数 2,103 件)

診療	775 件 (36.9%)
病気や治療など診療に関する情報	268 (12.7%)
病院・医師の選択、医療体制	117 (5.6%)
医師、医療スタッフとの関係性	98 (4.7%)
診療に関して相談できる部門（窓口）や人（職種）	91 (4.3%)
医師の説明や意見、治療の選択や意思決定支援	86 (4.1%)
診療に関すること（その他）	115 (5.5%)
体	268 件(12.7%)
症状や機能障害等に関する情報と具体的な対処方法	165 (7.8%)
機能障害や外見の変化に関する助言、指導	47 (2.2%)
食生活、食事に関すること	19 (0.9%)
体重・体力の低下、維持や回復（リハビリ含む）	11 (0.5%)
社会復帰、日常生活活動の情報やアドバイス	10 (0.5%)
体に関すること（その他）	16 (0.8%)
心	719 件 (34.2%)
体験談、同病者との交流	446 (21.2%)
何でも話せて相談できる相談窓口	99 (4.7%)
不安や思いを聞いてもらう場や人の存在	75 (3.6%)
生き方、終活	43 (2.0%)
がんに対する理解不足や偏見の改善	16 (0.8%)
心に関すること（その他）	40 (1.9%)
暮らし	341 件 (16.2%)
医療費や生活費など経済面	184 (8.7%)
仕事に関すること	59 (2.8%)
家事、家族（子どもや親など）の世話、日常生活	40 (1.9%)
家族に関すること	23 (1.1%)
社会、人との関わりに関すること	11 (0.5%)
暮らしに関すること（その他）	24 (1.1%)

(2) がん体験者が必要と思う情報や支援：上位 10 位

上位には、「診療の悩み」に関する項目が 6 項目全て入っている。そのなかで、第 1 位は、「心の苦悩」に関する項目の 1 つである「体験談、同病者との交流（に関する情報や機会の提供などの支援）」で、2 番目以下を大きく引き離している。2 番目には、病気や治療、検査や検診、緩和ケアなどの「診療に関する情報収集と情報提供（あるいは学ぶ場や機会の提供など）」があがっている。

また、暮らしの負担では、3 番目に「経済的負担（医療費、生活費）について」があがっている。これは、毎月高額な薬物療法代等がかかる事例が増加していることや就労の変化、シングルマザーなどの家族形態の変化等が影響していると考えられる。

図 6-1 がん体験者が求める情報や支援：上位 10 位



(3) がん体験者の悩みや負担と必要と思う情報や支援の比較

がん体験者の悩みや負担と、悩みや負担をやわらげるために必要と思う情報や支援を、「診療の悩み」、「身体の苦痛」、「心の苦悩」、「暮らしの負担」の4つの柱に基づき比較した。

「心の苦悩」は、悩みや負担、必要と思う情報や支援のそれぞれ割合はほぼ同じで、全体の1/3を占めている。一方、「診療の悩み」や「身体の苦痛」は、悩みや負担と必要と思う情報や支援の割合がアンバランスな結果を示した（「診療の悩み」では、悩みや負担 18.6%<必要と思う情報や支援 36.8%、「身体の苦痛」では、悩みや負担 22.8%>必要と思う情報や支援 12.8%）。

同様の傾向は、第一次調査結果による悩みや負担と静岡県立静岡がんセンターよろず相談（相談窓口）の相談内容を比較した際にもみられた。第一次調査時、悩みや負担と相談内容を比較した際、相談ではその8割が診療に関する相談で占められていた。その理由として、「解決する悩み」と「継続する悩み」、「相談しやすい悩み（明確な回答が得られやすい悩み）」と「相談しない悩み（明確な回答、具体的な回答が得られにくい悩み）」が存在するためではないかと考えられた。

第二次調査で、「診療上の悩み」の項目で一番多かったのは、病気や治療、検査や検診、緩和ケアなどの「診療に関する情報収集と情報提供（あるいは学ぶ場や機会の提供など）」であり、これなども、「明確な回答が得られる可能性がある悩み」といえる。

図 6-2 悩みや負担と求める情報や支援の比較：4つの柱

